

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100750		
法人名	社会福祉法人 釧路啓生会		
事業所名	グループホームきたぞの		
所在地	釧路市北園1丁目1番20号 (電話) 0154-55-1500		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(20年2月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12人, 非常勤6人, 常勤換算6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	18,000~ 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(2月29日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1		要介護2	8名			
要介護3	6名		要介護4	4名		
要介護5		要支援2				
年齢	平均	86.5歳	最低	80歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生医院 加藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人母体の福祉法人の特養に隣接した広い敷地には、パークゴルフ場や散歩コースがあり、気軽にでれる中庭には、花壇や畑、外気浴をできるようにテーブルやイスが配置され、畑で採れた野菜で収穫祭や焼き肉などの行事を行ない、利用者と家族や地域の人との交流する場となっています。隣接している特養の中には、居酒屋や美容院も運営しており、曜日ごとにサークルが催されホームの利用者も利用や参加しています。利用者家族との関係も連絡や相談を密にすることで良好な関係が築かれており、ホームの行事や家族会などの集まりにも積極的に参加されています。地域との取り組みも町内会に加入し、焼肉パーティーや盆踊りの行事に参加しており、小中学校のインターシップの実習での来訪もあり、さらなる取り組みも検討しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、「ホームだより」の発行も検討してはどうかという点でしたが、2ヵ月に一度ホーム独自の「ホームだより」を発行し、日常の様子や行事の案内や様子を載せ、家族や市、地域に配布し改善されています。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 自己評価票は全職員で行ない、管理者がまとめ作成しており、職員のケアを振り返り、サービスの質を向上させる機会と捉えています。また、前回の改善点は全職員で話し合い、積極的に改善に向けて取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議については、評価日現在9回開催されています。メンバーは利用者、家族、町内会長、民生委員、包括支援センターの職員及び管理者・職員で構成され、ホームの運営の取組状況、地域との交流やサービス評価などの議題について話し合わせ、意見をもらってサービス向上に活かしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、預り金の明細書を送付し、2ヵ月ごとに「ホーム便り」を発行し、行事や暮らしぶりを伝えています。体調の変化により受診する際には、事前事後に電話にてご家族に相談しています。来訪時に、意見や不満、苦情を言い易い様にホームの雰囲気作りに努め、意見、要望があれば速やか全職員で情報を共有して改善に取り組んでいます。毎年、家族懇談会での意見交換も行なっています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、焼肉パーティーや盆踊りの行事に参加しています。又、ホーム主催の収穫祭などの案内をして参加して頂いています。小中学校のインターシップの実習での来訪もあり、今後は保育園児との交流も働き掛けを行なう計画も立てています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、一人ひとりが安心して過ごしていけるように、地域の人と気軽に立ち寄れる関係を築き、地域の人々と積極的な交流が図れるホームを目指し、それに添った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員のアンケートにより、理念を作りあげ、職員会議で理念に添ったケアがされているかを確認し合い、利用者の状態や状況を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、焼肉パーティーや盆踊りの行事に参加している。また、ホーム主催の収穫祭などの案内をして参加して頂いている。小中学校のインターシップの実習での来訪もあり、今後は保育園児との交流についても働き掛けを行なう予定もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は全職員で行ない、管理者がまとめ作成しており、職員のケアを振り返り、サービスの質を向上させる機会と捉えている。また、前回の改善点は全職員で話し合い、積極的に改善に向けて取り組んでいる。		

釧路市 グループホーム きたぞの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、評価日現在9回開催されている。メンバーは利用者、家族、町内会長、民生委員、包括支援センターの職員、及び管理者・職員で構成され、ホームの運営の取り組み状況、地域との交流について意見を貰いサービス向上に活かしている。	○	今後は、運営推進会議のメンバーが積極的に参加し易いような議題の工夫、行政及び包括支援センターと連携して、地域に向けた研修会や勉強会なども検討し、地域におけるホームの役割や地域の高齢者の支援も視野に入れた取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と運営推進会議以外にも、地域包括ケア会議に出席し、情報交換してサービスの質の向上に取り組んでいる。また、運営推進会議の議事録や「ホーム便り」も定期的に提出し、その際にアドバイスも頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、預かり金の明細書を送付し報告している。また、2ヵ月ごとに「ホーム便り」を発行し、行事や暮らしぶりを伝えている。また、体調の変化により受診する際には、事前事後に電話にてご家族に報告、相談している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に、意見や不満、苦情を言い易い様にホームの雰囲気作りに努めている。意見、要望があればユニットで情報を共有し、よく話し合い、速やかに改善し、結果をご家族に報告している。また、毎年、家族懇談会開催し、意見交換を行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が、長期間に渡って勤められるように管理者は相談事や悩みを極力聞くように心掛けており、退職や新規採用時には、それによって利用者にダメージがないよう全体でフォローし配慮するよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自で職員の経験に応じた段階的な研修計画を立てており、職員の育成に努めている。外部への研修会も協議会や市の主催の研修会や勉強会にも希望を募り、積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じての、相互交流や勉強会・交換研修などの活動を通じて意見交換を行ない、相互の関係作りに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得したうえでサービスを利用するために、事前に本人・家族宅を管理者が訪問して納得を得るまで説明している。また、可能であれば施設見学により雰囲気をつかんでもらいながら、徐々に馴染みの関係を作っていくように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式での、一人ひとりの生活歴を活かし、縫い物や調理の仕方を教えて頂き、畑作業、花の手入れなどの役割事、雑巾作りや編み物の趣味事などを一緒に行ない、その中で喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で職員は表情や会話で利用者の希望や意向の把握に努め、生活歴や家族の希望や意向も踏まえて、記録に残し職員間で共有し、本人本位の生活できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、全職員の意見も取り入れてケアの課題を明らかにして、より具体的な内容になるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、月に一度、モニタリングを実施して、期間に応じてケアプランの見直しを行ない、状態の変化があれば随時行なっている。また、本人や家族、全職員の意見を取り入れ現状に即した介護計画の見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院の支援や、本人の希望や要望がある場合、買物、散歩、気晴らしのドライブなど、なるべく本人の希望が実現できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の本人の掛り付け医への受診支援を行ない。利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。また、ホーム内でも、法人の看護職員が健康管理を定期的に行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族とも早い段階的から話し合いをしながら慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。また、状態の変化に応じて随時家族・医師との話し合う機会を設けるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉掛けや対応を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも注意して支援している。また、記録の扱いもについても、十分に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式により、利用者一人ひとりの気持ちが把握され職員間で共有されている。また、利用者の希望や思いを尊重し、買物や調理や食事の準備への支援、入浴など本人の希望やペースに添って支援している。		

釧路市 グループホーム きたぞの

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備、食事、片付けを行っている。利用者の好みを把握し、苦手なおかずの際は、代用のおかずを出している。また、回転ずしやバイキング、観光地のレストハウスなどの外食の機会も作り、食事を楽しくめるように工夫して取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回を目安に本人の意向を確認しながら無理強いしないように心掛けている。入浴時間は希望に沿って変更の対応にも努めている。また、湯船にみかんの皮やリンゴの皮を入れて、利用者が入浴が楽しめるような支援を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の利用者の生活歴を踏まえ、習慣を尊重し調理や掃除、畑作業、花壇の手入れの役割や、買物や散歩、近効へのドライブなどの気晴らしの支援も行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添って、買物、散歩、日課の外気浴、鶴居のグリーンパーク、別保公園や千代の浦海岸へのドライブなど気分転換や心身のリフレッシュができるように積極的に外出ができるような支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、以前より施錠の時間を短くしたり、利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

釧路市 グループホーム きたぞの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の緊急時対応マニュアルを作成し、防火管理者を設置し、年2回、消防署員立会いのもと利用者とともに避難訓練を実施している。	○	今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるように運営推進会議で働き掛けを行ない、地域の人々を含めた火災避難訓練を実施し、地域との連携強化が図れるように検討している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な食事摂取量、水分摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについては、朝、夕の献立は、法人の管理栄養士のもとでバランスの取れた食事が提供されている。また、一人ひとりの健康状態に合わせた量や調理の工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には花を飾ったり、壁には行事の写真や飾り、気軽にでられる中庭には、畑や花壇が設けられ、焼き肉や外気浴ができるようにベンチやテーブルが配置されており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は、本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込むよう働き掛けており、家族との写真や本人の趣味の作品などを飾り、仏壇も持ち込まれ、お坊さんがお経をあげにくる利用者のお部屋もあり、居心地よく過ごせる居室の環境作りに努めている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。